

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 21 年 2 月 12 日 (2009.2.12)

【公表番号】特表 2008-530257 (P2008-530257A)

【公表日】平成 20 年 8 月 7 日 (2008.8.7)

【年通号数】公開・登録公報 2008-031

【出願番号】特願 2007-553305 (P2007-553305)

【国際特許分類】

C 0 9 C 3/12 (2006.01)

C 0 9 C 1/00 (2006.01)

B 8 2 B 1/00 (2006.01)

B 8 2 B 3/00 (2006.01)

C 0 9 C 1/28 (2006.01)

C 0 9 C 1/40 (2006.01)

C 0 9 C 1/62 (2006.01)

【 F I 】

C 0 9 C 3/12

C 0 9 C 1/00

B 8 2 B 1/00

B 8 2 B 3/00

C 0 9 C 1/28

C 0 9 C 1/40

C 0 9 C 1/62

【手続補正書】

【提出日】平成 20 年 12 月 19 日 (2008.12.19)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ゼオライト、合成珪酸塩、天然珪酸塩、シリカ、アルミナ、鉱物、天然繊維、人造繊維、ガラス及び金属繊維からなる群より選ばれた基材の物理的性質を変性する方法であって、ポリヘドラルオリゴメリックシルセスキオキサン、ポリヘドラルオリゴメリックシリケート、及びそれらのポリマーからなる群より選ばれたナノ構造化学物質で基材を被覆することを含み、ここで、ナノ構造化学物質は、(a) 基材による湿分吸収の低減、及び (b) 基材がフィーラー材料として使用される際のポリマーとの適合性の向上からなる群より選ばれた基材の物理的性質を変性するものである方法。

【請求項 2】

請求項 1 記載の方法であって、基材が、ナノ構造化学物質の混合物で被覆される方法。

【請求項 3】

請求項 1 記載の方法であって、ナノ構造化学物質が、基材にインターカレートされる方法。

【請求項 4】

請求項 1 記載の方法であって、ナノ構造化学物質が、基材を層剥離する方法。

【請求項 5】

請求項 1 記載の方法であって、基材が、溶媒を使用しない技術で被覆される方法。

**【請求項 6】**

請求項 6 記載の方法であって、溶媒を使用しない技術が、熔融状態処理である方法。

**【請求項 7】**

請求項 1 記載の方法であって、基材が、溶媒を使用する技術を使って被覆される方法。

**【請求項 8】**

請求項 8 記載の方法であって、溶媒を使用する技術が、噴霧処理技術、流動処理技術及び混合処理技術からなる群より選ばれるものである方法。

**【請求項 9】**

請求項 1 記載の方法であって、ナノ構造化学物質が、基材に反応して結合するものである方法。

**【請求項 10】**

請求項 1 記載の方法であって、ナノ構造化学物質が、基材に反応せずに結合するものである方法。